

埼玉親善大使レポート

Julio de 2016

長山優子

最後の課題

Intermedio 2 のコースが半年前に終わり、一時はインターンシップ等を行いました。最終的に CEPE に最後のクラス、Superior まで残ることにしました。

その Superior、最終評価はテストではなく、先生から指示された毎週の作文とそのやり直し、さらに「自由テーマのレポート（5 枚以上）」と「プレゼンテーション（30 分以上）」。私が現役学生だったのは数年前のことなので、レポートを仕上げるのも数年ぶり。そのところはとても苦労しましたが、最後やり遂げた時の 6 週間分のレポートと提出課題の山を見たときは、喜びも一入でした。

ちなみにテーマは刺繍。メキシコには刺繍の民芸品が多くあり、私も刺繍が趣味ということもあり、このテーマに決めました。ぜひ民芸品市場に立ち寄った際にはメキシコの刺繍の種類の見聞を広げたいと思います。

最後の旅行

怪我の具合も少しずつ良くなり、傷跡もだいぶ落ち着いた 7 月。歯の痛みは残っており、治療は継続していましたが、担当の先生が一か月のバカンスを取ることと、治療が出来ないため、私も思い切って旅行に行くことにしました。

旅行は、その時すでに旅行中だった友人と合流する形で、グアナファトから始まり、グアダハラ、サユリータ、プエルト・バジャルタ、その後同行した友人と別れ、ケレタロの別の友人の家で一泊させてもらい、サン・ミゲル・デ・アジェンデに行くという、長期間に及ぶものでした。

海



サユリータのビーチ

海なし埼玉県民にとって、夏の思い出は水上公園。海への憧れと少しの近づき難さがあるのではないのでしょうか。私はそうでした。海は遠いし怖いもの。砂も足にまとわりつくし、それならば水上公園の波のプールで満足。そんなこんなで最後に行ってから 20 年が経ってしまっていました。

しかしながら、メキシコの海は違いました。特にメキシコ人の間で評判のサユリ

一々の浜辺の砂はサラサラ。水は澄みきって綺麗。太平洋なのに日本の真反対の海はとても感動するものでした。少し潜ると魚の群れが見える。この景色は一生忘れることはないと思います。

街

街並みの素晴らしかったところはグアナフアト。ここはスペイン統治時代の面影残るコロニアル都市で、山の斜面を切り開いた街です。その為、坂が多く、また道幅もかなり狭いのですが、街の展望台から街並みを望むと、カラフルな数々の建物が目を惹きます。それは、一見するとおもちゃのようでもあります



グアナフアトの展望台から

が、それが重なりあい、さらに夕方のライトアップで、幻想的な光景を生み出しています。余談ですが、何となく道の作りがくねくねして入り組んでいたのは育った町、川越を彷彿としました。

また、グアダハラではちょっとしたハプニングがありました。たまたま泊まったホステルに韓国の有名な歌手が旅番組の収録で滞在していたのです。これはチャンスと思った私はちゃっかりサインをもらってしまいました。これもまたいい思い出です。

最後に

最後に、この一年間は本当に夢のような一年間でした。メキシコの文化に触れ、友人にも恵まれ、小学生のころからの夢であったスペイン語を海外で学ぶということも出来たのは、埼玉県国際課の方々を初め、外務省の方々、CONACYTの方々のご尽力のおかげです。今後、この経験を何かしらの形で社会のお役に立てるよう、これからも精進致します。

大変お世話になりました。どうもありがとうございました。